

さいたまけんりつとしょかん
埼玉県立図書館だより

～あなたの調べるを応援します～

Saitama Prefectural Library Newsletter

あなたの知らない世界が広がる。

図書館の書庫

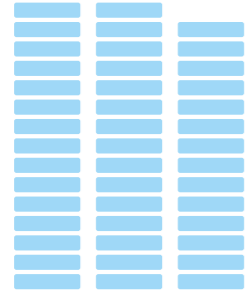
図書館の書庫

図書館にある本や雑誌、CDなどの資料は、普段みなさんが目にしているものだけではありません。通常みなさんが入ることができない図書館の「裏側」である、書庫にも多くの資料が保存されています。

埼玉県立図書館の書庫



書庫(閉架) 約133万冊



開架 約27万冊



書庫のことを「閉架」と呼び、反対にみなさんが普段ご覧になっている閲覧室にある棚を「開架」や「公開」と呼ぶことがあります。埼玉県立図書館では、書庫に約133万冊、開架に約27万冊と、書庫には開架に比べ約5倍の図書が保存されています。各館の内訳は以下のとおりです。

	書庫(閉架)	開架
熊谷図書館	約30万冊	約15万冊
久喜図書館	約48万冊	約12万冊
外部書庫	約55万冊	—

※書庫・開架の図書冊数には、視聴覚資料や、雑誌、障害者サービス用資料の点数を含んでいません。

書庫の資料を利用する

書庫の資料もカウンターで申し込み、利用することができます(一部の資料を除きます)。利用方法について、詳しくは裏表紙をご覧ください。

書庫にある様々な資料



埼玉県に関する資料

全国でも当館にしかない資料も多く、中でも貴重なものは劣化を防ぐため貴重書庫で保存しています。



和装本

日本伝統の方法で製本された江戸時代初期頃からの和装本を、保存に適した中性紙の箱に入れてあります。



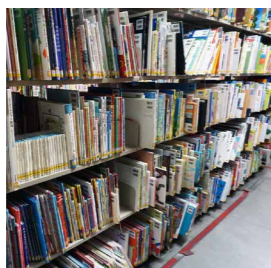
視聴覚資料

レコードやカセットテープ、CD、DVD、16ミリ映画フィルムなど、計5万点以上所蔵しています。



雑誌

県内の市町村立図書館から移管されたものも含め、計90万冊以上となる豊富な種類の雑誌を所蔵しています。



絵本など

絵本や紙芝居、外国語のこどもの本、小学生新聞、こどもの本の研究書など、幅広く収集・保存しています。



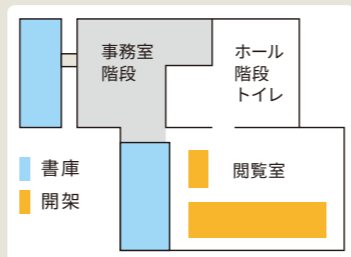
障害者サービス用資料

点字資料や録音資料、LLブック、布絵本を収集・自館で製作し、計6千点以上所蔵しています。

なぜ書庫に保存するの？

「全部の資料が開架にあったほうが便利では？」と思われるかもしれませんが、今年100周年を迎える埼玉県立図書館では、開館以来、膨大な資料を蓄積してきました。貴重な資料群の劣化を防ぎ後世に引き継ぐため、また利用頻度の低下した資料を書庫に置き、限られた開架スペースを新鮮に利用しやすい状態に保つため、多くの資料を書庫に保存しています。

下の図は、熊谷図書館2階のおおまかな配置図です。



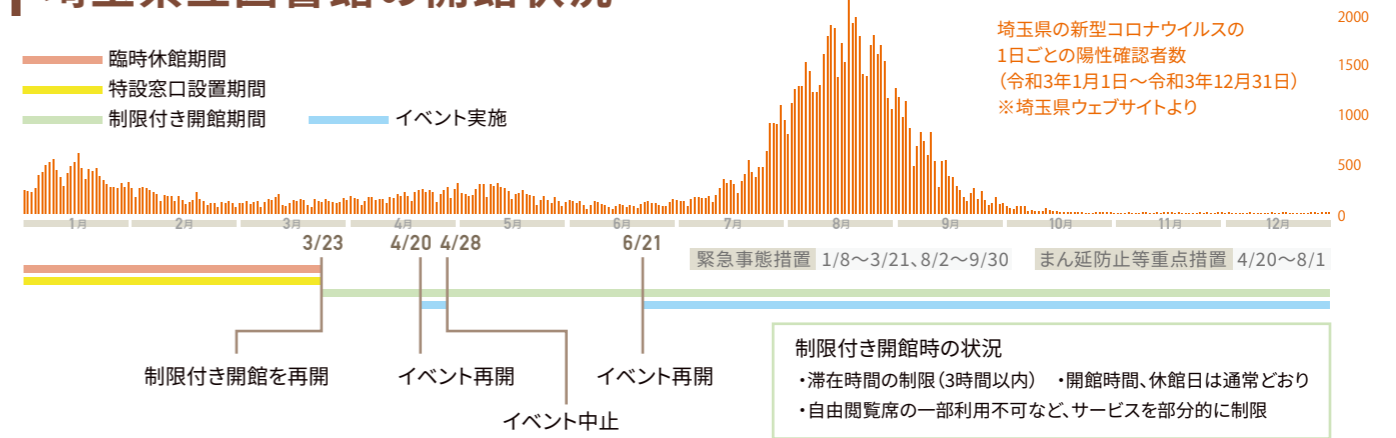
書庫にある貴重書や絵図等を皆様に手軽にご覧いただけるよう、著作権保護期間が満了した資料をデジタル化し「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」として公開しています。詳しくは、埼玉県立図書館ウェブサイトをご覧ください。



新型コロナウイルスと2021年

(1月～12月)

埼玉県立図書館の開館状況



データで見る新型コロナウイルスの影響

各数値右下の%は、2019年との比較です。各数値は、1月～12月の合計です。また、熊谷図書館、久喜図書館、浦和分室を合計したものです。

	2019年(コロナ前)	2020年	2021年	
入館者数	315,543人	190,532人 39.6% ↓	195,469人 38.1% ↓	2020年から若干増加しましたが、臨時休館期間が3か月弱あり、依然大きな減少となっています。
貸出冊数	一般書 94,273冊 児童書 126,737冊	82,992冊 12.0% ↓ 84,654冊 33.2% ↓	83,068冊 11.9% ↓ 95,597冊 24.6% ↓	一般書はほぼ増減はありません。一方、2020年に大きく減少した児童書は回復傾向です。
WEB予約数	31,504件	44,250件 40.5% ↑	50,904件 61.6% ↑	自宅から行えるWEB予約は、コロナにより利用が大きく増加しました。さらに2021年も増加が続きました。

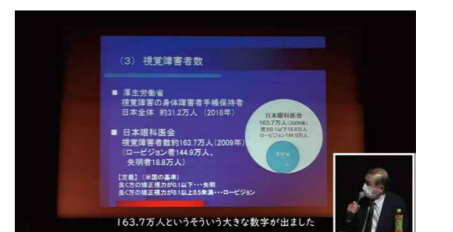
Zoomや動画配信の活用

講座や研修、イベントなどで、Zoomを使用したオンラインでのライブ配信や、動画の後日配信など、コロナに対応した新しい形での事業開催を積極的に行いました。2021年1月から2022年1月までの間、計21の事業でZoomや動画配信などを活用しました。

例えば、「親子ふれあい講座」では、毎月第4水曜日にZoomを使用し、家庭教育アドバイザーによる子育てアドバイスや、てあそび・わらべうたなど親子で楽しむ講座を行っています。文化講座「今こそ、ラジオ!～レトロで最先端～」では、Zoom及びYouTubeでライブ配信を行い、後日、YouTube上でのアーカイブ配信も行いました。「令和3年度読書バリアフリーに向けた図書館サービス研修」では、通常の後日配信動画に加え、字幕を加えた動画も作成し配信しました。また、「図書館と県民のつどい埼玉2021」では、司書のライブ配信番組や、ビブリオバトル、講演、WEB展示など、様々なイベントを全てオンライン開催で実施しました。



「今こそ、ラジオ!～レトロで最先端～」YouTubeアーカイブ配信



「令和3年度読書バリアフリーに向けた図書館サービス研修」字幕を加えた後日配信動画

モロッコ革の本

柄折久美子が渡欧して、ベルギーでルリユール(製本技術)を学んだのは、1972年2月から7月、40代前半のころである。その時期の体験をまとめたのが『モロッコ革の本』だ。エッセイ2作目『製本工房から』(冬樹社 1978)を読むと、彼女が筑摩書房退職後もフリーで装丁の仕事を重ね、1970年には、既にその数が350冊を超えていたことがわかる。

彼女は、どうしてブックデザイナーとして多くの仕事を重ねている時期に製本を学び直そうと思ったのだろう。1人の人生が変わる時期に立ち会えることも本書の魅力の一つだが、ここでは、欧州滞在記としてだけでなく、師弟ものとしても楽しめることにふれておきたい。

本書には、チュケール先生とベルフロワさんという二人の師が登場する。「クミコ」が懸命に手を動かして学んだことが、師に認められるエピソードがある。「三か月の勉強でクミコは三年生

の実力がある」(p.191)とチュケール先生が「クミコ」に言う。言葉もつたない状況で、懸命に努力をして、認められた彼女の喜びが、この出来事をどうしても書き残したかった気持ちも含めて伝わってくる。

彼女がベルギーの文化体験で受け取ったもの大きさは、その後日本の製本文化に寄与するために注がれた時間の膨大さが物語っているだろう。その情熱の核が、この本にはあると思う。県立図書館には文庫、大活字本などの所蔵もあるが、写真掲載のある単行本をおすすめしたい。

(紹介者 芸術・文学資料担当 松山)



モロッコ革の本
柄折久美子 著
筑摩書房 1975
(所蔵館 久喜図書館 916 ト)

司書がおすすめる、埼玉県立図書館所蔵の本や雑誌、CDなどをご紹介します。

書庫の資料を利用する



図書館内にある、検索用パソコンで資料の書名などを入力し、検索してください。検索結果の一覧で該当資料をクリックし、資料詳細画面を開きます。

「印刷ボタン」を押すと、パソコン横の機械から、資料情報票が印刷されます。



ご不明な点は、お気軽にカウンターまで、お声がけください。



① 画面右上の状態が「貸出可」「禁帯出」となっているものは利用できます。「貸出中」となっているものは利用できません(予約を行います)。※禁帯出のものは館外の貸出はできません。

② 所蔵館が「熊谷」となっているものは熊谷図書館に、「久喜」は久喜図書館に、「外部書庫」は外部書庫にあります。

③ 所蔵館が今いる館の資料の場合
所蔵場所が「〇〇公開」となっているものは、閲覧室内にあります。「〇〇書庫」となっているものは、書庫にあります。「印刷ボタン」を押し、レシート(資料情報票)を印刷して、カウンターにお持ちください。

所蔵館が今いる館以外の資料の場合
「予約ボタン」を押し、予約してください。「予約ボタン」が無いものは、カウンターにお声がけください。

お問合せ: 熊谷図書館(電話 048-523-6291)、久喜図書館(電話 0480-21-2659)

